

<実習生調書集計報告>

実習生調書については、青森・岩手・秋田・山形・福島の各県の23校の養成校及び統一様式を用いている宮城から24種類の書式が収集された。24書式から、次のように整理した。

1. 年度、書類の作成日

実習年度を記載している書式は4件あった。また、書類の作成日を記載する欄を設けていたのは、8件であった。

2. 実習先に関する情報

実習施設名称及び住所欄が3件、実習先電話番号欄が2件あった。また、実習先指導者氏名欄を設けていた書式は1件であった。実習先については、実習計画の欄にも記載される枠が設けられていた。

3. 実習期間

実習期間欄を設けていた書式は3件あった。

4. 実習生の情報

実習生については多岐にわたる。実習生の氏名等の属性、連絡先、実習先への通勤手段、実習経験、ボランティア経験、本人がとらえている性格等の特性、健康状態、履修科目・特異な科目、申告を要する事柄などの観点から、10項目に分けて整理した。

4-1. 実習生氏名・本籍地・性別・生年月日・年齢・家族構成・学歴・写真、所属等

全ての書式で記入欄が設けられていたのは、氏名及び氏名のふりがなであった。学生の写真を貼付する欄が設けられていたのは22件あった。本籍地の記載欄が4件、捺印欄が1件で設けられていた。性別欄が11件、生年月日欄が17件で、満年齢欄が8件、入学年度欄が2書式で設けられていた。また、家族（氏名、続柄、年齢、職業・学校等）の情報を記載する欄が1件あった。図1に示す。

学生の学歴欄が設けられていた。具体的には、年月欄が4件、学校名欄が12件あった。保育所や幼稚園の卒園以降記入するもの、小学校卒業以降記入するもの、中学校卒業以降記入するもの、卒園と卒業高校を記入するもの、出身高校を記入するものなどがあった。

所属する養成校及び養成校における学生の情報については、養成校名欄が22件、学科・課程名・専攻名等の欄が15件、学籍番号欄が12件、学年欄が12件、組欄が8件、番号欄が4件、養成校連絡先欄が5件あった。養成校名と学科・課程名称等の欄については、印刷されている場合、学歴欄に印字されている場合、自分で書き込む場合があった。演習・実習担当教員も1書式ではあるが、記入欄が設けられていた。図2に示す。



図1 実習生氏名・本籍地・性別・生年月日・年齢・家族構成等（総数：24）

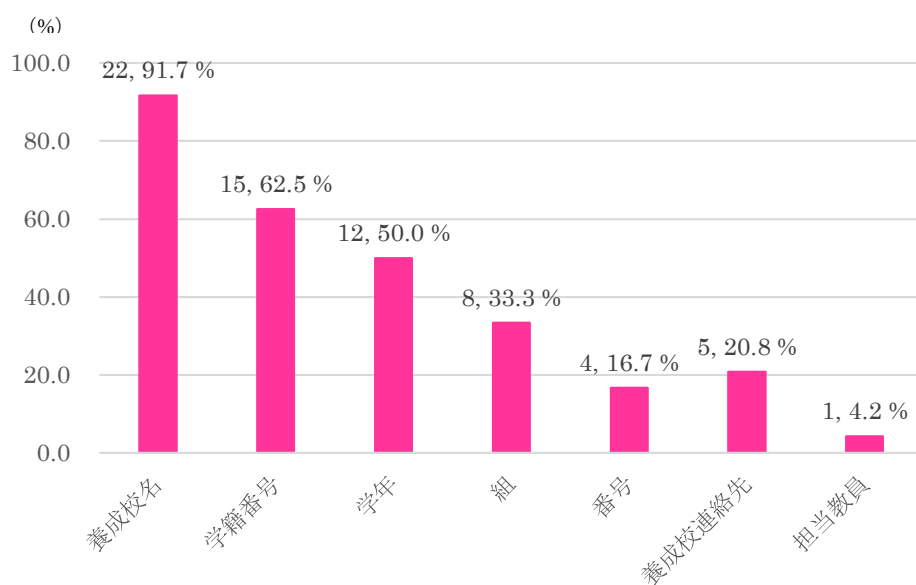


図2 所属する養成校・養成校における学生の情報

4-2. 連絡先（本人連絡先、保護者連絡先）

本人連絡先については、現住所欄と電話欄が 19 件、携帯電話番号欄が 5 件、実習中住所欄が 10 書式で、実習中の電話番号欄が 9 件あった。表 1 に示す。

また、保護者や緊急連絡先については、保護者氏名欄が 5 件、緊急連絡先続柄欄が 2 件あった。保護者・家族住所欄が 19 件、保護者・家族電話番号記入欄が 20 件、少数ながら保護者携帯電話番号欄が 1 件あった。緊急連絡先という表現は 1 件だった。表 2 に示す。

表 1 本人連絡先記載内容

項 目	欄が設けられていた書式数 (%)
現住所	19 (79.2)
実習中住所	10 (41.7)
実習中電話番号	9 (37.5)
携帯電話番号	5 (20.8)

表 2 保護者連絡先記載内容

項 目	欄が設けられていた書式数 (%)
保護者氏名	5 (20.8)
緊急連絡先続柄	2 (8.3)
保護者・家族住所	19 (79.2)
保護者・家族電話番号	20 (83.3)
緊急連絡先として記入	1 (4.2)

4-3. 実習における通勤・宿泊の別、交通手段等

通勤・宿泊の別を記入する欄が 1 件、交通手段欄が 12 件、経路・所要時間欄が 8 件（うち、交通経路備考欄が 1 書式）設けられていた。

4-4. 実習経験、実習計画、実習の抱負等

実習計画や保育実習全体の实習計画等については、実習年欄が 2 件、実習月欄が 2 件、実習種別欄が 4 件、実習先欄が 11 件、実習日数欄が 1 件、実習期間欄が 2 件、実習内容を記載する欄が 1 件、設けられていた。図 3 に示す。

実習について考えていることが 2 件、抱負と目標がそれぞれ 2 件の書式で見られた。

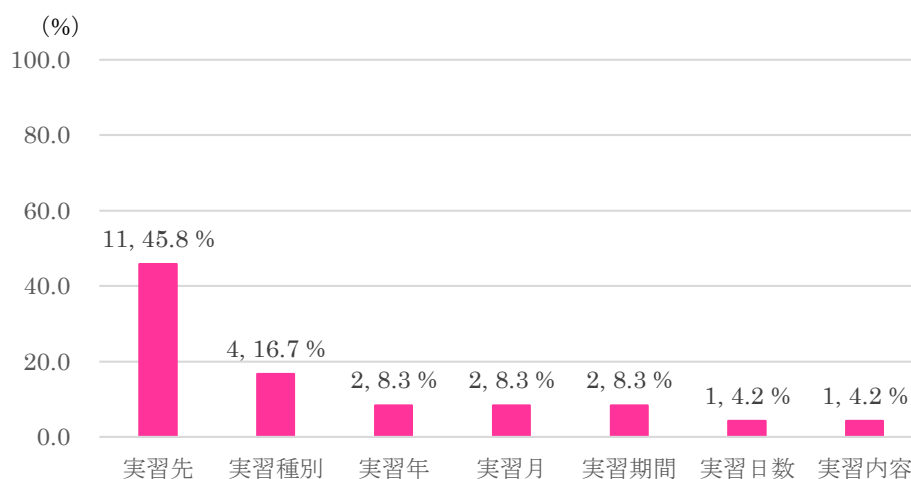


図 3 実習経験、実習計画

4-5. ボランティア経験

欄が独立している場合とそうでない場合がある。ボランティア経験年月欄が 1 件、主催欄が 1 件、活動場所欄が 1 件、活動内容欄が 2 件、活動日数欄が 1 件、ボランティアとして記入する欄が 5 件で設けられていた。表 3 に示す。

表 3 ボランティア経験記載内容

項 目	欄が設けられていた書式数 (%)
経験年月	1 (4.2)
主催	1 (4.2)
活動場所	1 (4.2)
活動内容	2 (8.3)
活動日数	1 (4.2)
ボランティアとして記入	5 (20.8)

4-6. 学内・学外の活動、サークル等

学外の課外活動欄が 1 件、学内の課外活動 2 件、学友会及び委員欄が 3 件、クラブ・サークル欄が 4 件、学内外の活動として記入する欄が 1 件で設けられていた。表 4 に示す。

表 4 学内外の活動、サークル等

項 目	欄が設けられていた書式数 (%)
学外の課外活動	1 (4.2)
学内の課外活動	2 (8.3)
学友会・委員	3 (12.5)
クラブ・サークル	4 (16.7)
学内外の活動として記入	1 (4.2)

4-7. 自己紹介、性格、趣味・特技、自己 PR、将来の希望

自己紹介として記入する欄が 3 件で設けられていた。性格については、長所と短所の欄が 3 件、性格を記入する欄が 5 件あった。趣味・特技について記入する欄を設けていたのは 22 件、うち、趣味と特技を分けて記入するようになっていたのは 11 件、趣味のみを記入するようになっていたのは 1 件であった。自己 PR については 2 件で欄が設けられていた。将来の希望について記入する欄が設けられていたのは 1 件であった。表 5 に示す。

表 5 自己紹介、性格、趣味・特技、自己 PR、将来の希望

項 目	欄が設けられていた書式数 (%)
自己紹介として記入	3 (12.5)

長所と短所	3 (12.5)
性格を記入	5 (20.8)
趣味・特技として記入	22 (91.7)
趣味と特技を分けて記入	11 (45.8)
趣味のみ	1 (4.2)
自己PR	2 (8.3)
将来の希望	1 (4.2)

4-8. 健康状態

健康状態（その他も記載する欄含む）として記入する欄が16件、血液型欄が4件、食物アレルギー欄が2件、視力が1件、実習上の配慮を希望することについて記入する欄が1件あった。表6に示す。

表6 健康状態

項目	欄が設けられていた書式数 (%)
健康状態として記入	16 (66.7)
血液型	4 (16.7)
食物アレルギー	2 (8.3)
視力	1 (4.2)
実習上の配慮事項	1 (4.2)

4-9. 履修科目、得意な科目、取得予定の資格・免許等

履修科目欄が2件、得意な科目欄が7件、得意とする基礎技能科目欄が2件、関心のある教科欄が1件見られた。

履修中の資格欄が設けられていたのは11件、取得予定の免許・資格欄が設けられていたのは4件であった。表7に示す。

なお、履修状況については、別途、書式を作成している養成校もあるだろう。

表7 履修科目、得意な科目、取得予定の資格・免許等

項目	欄が設けられていた書式数 (%)
履修科目	2 (8.3)
得意な科目	7 (29.2)
得意とする基礎技能科目	2 (8.3)
関心のある教科	1 (4.2)
履修中の資格	11 (45.8)
取得予定の免許・資格	4 (16.7)

4-10. 実習上申告を要する事項、備考欄

実習上申告を要する事項として記入欄を設けていたのは2件、備考欄を設けていたのは9件だった。

5. 指導のポイント

指導のポイントに関する各養成校から胃の回答を内容ごとにまとめて紹介する。

5-1. 書類の扱い方、記入方法、記入の目的についての指導

書類は折り曲げ無いように気をつける、正式な書類に記入するとはどういうことか、誤字脱字が無いように記入する、1本のペンで記入すること、丁寧な見やすい文字で記入すること、文字の大きさやバランスに気をつけること、写真当も含めその書類を実習先が見てどう思うかなどについて指導されていた。

実習先の保育者が実習生の実像を理解しやすいように記入すること、簡素に記入をすることにより自己理解を促すこと、キャリア教育の一環として指導をすること、性格や趣味や特技の欄は実習先の理解のきっかけや部分実習のテーマを決める際の手がかりにしてもらおう意図があることなどが説明及び指導されていた。

健康状態については、持病やアレルギーの記入に際して、教員が学生に確認しながら記載について指導をする、実習を行うにあたって配慮が必要な事項（アレルギー等）について記入するように指導するという記載もあった。

また、学生の個性が伝わるようにとの養成校の期待に基づき、趣味、特技、ボランティア経験、履修済み・履修中の科目などを記載しているとの記載もあった。

5-2. 教員によるチェック

学生が下書きしたものを教員がチェックしてから清書する。チェックする内容としては、全ての項目の内容や文の表現、自己紹介欄や長所・短所の記載内容、写真（髪型、服装、髪の色、背景等）であった。

また、指導担当者は各養成校の実習体制にもよるが、実習主担当者を中心に実習指導担当全員で、あるいは実習指導担当教員で、言語科目の担当教員と実習指導担当教員が連携して、クラス担当者や実習事務担当者が指導とチェックをおこなっていた。

以上